

ようこそ大多喜城へ

千葉県立中央博物館大多喜城分館は、千葉県指定史跡の上総大多喜城本丸跡に昭和50年に建てられた天守閣づくり(3層4階の鉄筋コンクリート造)の歴史博物館です。当博物館は、房総の中世・近世の城郭とそれに関わる武器・武具や調度品・古文書及び武家社会や城下町の生活などに関する資料を展示しています。



紙本著色本多忠勝像

大多喜城の歴史

中世の大多喜は、史料の中に小田喜と見られますので、大多喜城もその頃は小田喜の城と呼ばれていたようです。

16世紀の前半代に武田氏が入城したとも言われていますが、天文期(1532~1555)に安房の里見氏の重臣であった正木氏が入り、以後4代にわたり、上総正木宗家の居城として発展します。

その後、1590(天正18)年に北条氏が豊臣秀吉によって滅ぼされると、徳川家康が江戸城に入り、小田喜城を家臣の本多忠勝に与えて安房の里見氏の勢力をおさえようとした。

城主は本多氏のあと、阿部・青山・稲垣氏へと引き継がれ、1703(元禄16)年に松平氏が入城します。以後、松平氏は9代続き明治の廃藩置県を迎えました。

見る聴く触れる 歴史を体感!

●講座

古文書講座等の講座を開催しています。

●体験教室

甲冑の試着体験を行っています。



「房総の城と城下町」が テーマです。

4階 展示室

大多喜城と城下町の模型を展示し、あわせて周辺の文化財を写真パネルで紹介しています。また、窓から城下町の様子を見ることができます。

3階 展示室

城下町の人々のくらしぶりを示す商工業用具や調度品、信仰資料や古文書などを展示しています。

2階 展示室

房総の城と武士をテーマに城郭や武士に関する資料を展示しています。また、企画展開催の会場にもなります。

1階 受付・展示室・ミュージアムショップ

展示室では「日本の城」と「千葉県の城」をパネルで紹介しています。



紺糸威仏二枚胴具足



大多喜城全図